



International Year of
CHEMISTRY
2011



【クローズアップ】

いよいよ迫る「化学」な1年!

2011年「世界化学年」に向けて

西出宏之

世界化学年日本委員会実行委員長
早稲田大学先進理工学研究科教授

2008年末に開催された国際連合総会において、キュリー夫人のノーベル化学賞受賞から100年目にあたる2011年を「世界化学年」(International Year of Chemistry, 略してIYC2011)とすることが決まりました。これは日本学術会議化学委員会が国際純正・応用化学連合(IUPAC)からの呼びかけに賛同し、化学委員会IUPAC分科会とともに、わが国が共同提案国として国際連合教育科学文化機関(UNESCO)に働きかけ、実現したものと聞いています。2011年はまた、IUPACが設立されて100年¹⁾にもあたります。

世界化学年の統一テーマは、“Chemistry—our life, our future”

であり、「化学に対する社会の理解増進」、「若い世代の化学への興味の喚起」、「創造的未来への化学者の熱意の支援」、「女性の化学における活躍の場の支援」を目的としています²⁾。世界各地でこの「世界化学年」を盛り上げるイベントが告知されており、1月末に開会式(パリ)、8月初頭に全体会議(ブエルトリコ)、12月に閉会式(ブリュッセル)がIUPAC(異行次期会長)からアナウンスされています。

わが国においては、これまでも化学関係の学協会・諸団体をはじめ、大学や企業がすでにこの趣旨や目的に沿った活動を長年にわたり地道に積み重ねてきており、また昨年7月に東京で開催された国際化学オリンピックでの高校生の熱気は記憶に新しいところです。これらの事業を継続発展させるために、「2011年を化学の年」として、化学の一層の振興と社

にして・ひろゆき ● 早稲田大学先進理工学研究科教授、1975年早稲田大学大学院理工学研究科博士課程修了、<研究テーマ>高分子化学、機能性有機材料

会への幅広い普及・啓発・人材育成にあたるべく、野依良治委員長のもと「世界化学年日本委員会」(企画委員会:岩澤康裕委員長, 実行委員会)が発足しました。事務局は日本化学連合(御園生 誠会長)³⁾に置かれ、日本化学会、化学系学協会および日本化学工業協会をはじめとした産業界の、この趣旨に沿った諸事業を「世界化学年」の旗のもとに推進する計画です。12月のカウントダウン記念シンポジウム(東京)、PACIFICHEM(ハワイ)での発足レセプションに引きつづき、3月末の日本化学会年会(神奈川大)での公開シンポジウム、例年より充実した夢化学21「夏休み子供化学実験ショー」(7月末予定)をはじめ、それぞれ工夫した賛同の行事として、市民講座や実験教室などが企画されており、世界共通ロゴを冠して広報も始まっています(問合せ、行事登録⁴⁾)。

IYC2011年を記念した新しい事業も企画されています。「キュリー夫人科学伝記」から小・中学生に人間としての生き方を考えてもらう読書感想文コンクール、啓発活動・情報発信を通して「化学」に対する社会の理解を深めることに貢献した個人・団体を表彰する「化学コミュニケーション賞」の新設、化学の実験や現象を展示するコーナーを科学館に設けてもらう「見せる化学・魅せる化学(仮称)」(日本科学未来館ほか)などです。

「世界化学年」事業を通して、わが国の科学・技術がますます振興し、持続可能な社会を支える人材の育成と教育の増進が図られ、2011年がわが国の力強い将来に貢献する輝く「化学の年」となることを願って日本委員会は活動を開始しています。

1) 1894年にベルギーで開催された各国化学会代表の会議で、化合物の命名法、用語、測定の方法、原子量、その他の基本的なことに関して国際的合意をつくるのが望ましいと謳われ、それを実行する組織として国際化学会連合(International Association of Chemical Societies, IACS)が1911年に発足した。その組織が1919年にInternational Union of Pure and Applied Chemistry(IUPAC)に名称変更された。

2) IYC2011世界化学年ホームページ(<http://www.chemistry2011.org/>)。

3) 2007年設立の化学系学協会の連合体。加盟団体17学協会、会員の延べ人数約11万人。岩村秀, 化学, 62(9), 18(2007);(一般社団法人)日本化学連合ホームページ(<http://www.jucst.org/>)。

4) 世界化学年日本委員会(<http://www.iyc2011.jp/>)。